

ソルクシーズ

4284 東証 2 部

<http://www.solxyz.co.jp/investment/>

2016 年 6 月 8 日 (水)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
佐藤 譲

[企業情報はこちら >>>](#)

■ 高齢者の在宅見守り支援システム「いまイルモ」がスタート

ソルクシーズ <4284> はソフトウェア開発事業とデジタルサイネージ事業を展開する。ソフトウェア開発では金融業界向けの割合が高く、単独売上高の 6 割強を占める。既存事業の強化に加えて、収益の安定性を高めるためストック型ビジネスを育成中のほか、Fintech や IoT、自動運転技術など成長が見込める分野にも今後注力していく方針だ。2015 年 12 月に JASDAQ 市場から東証第 2 部に市場変更したが、今後は第 1 部への上場も目指していく。

4 月 28 日付で発表された 2016 年 12 月期第 1 四半期の連結業績は、売上高が前年同期比 19.1% 増の 3,160 百万円、営業利益が同 34.8% 減の 77 百万円と増収減益となった。金融業界向けを中心にソフトウェア開発の売上げが好調に推移したものの、外注費や採用費が増加したほか、グループ子会社の収益も伸び悩んだことから 2 ケタ減益となった。ただ、会社計画比で見ると売上高、営業利益ともに上回っており、順調に推移している。

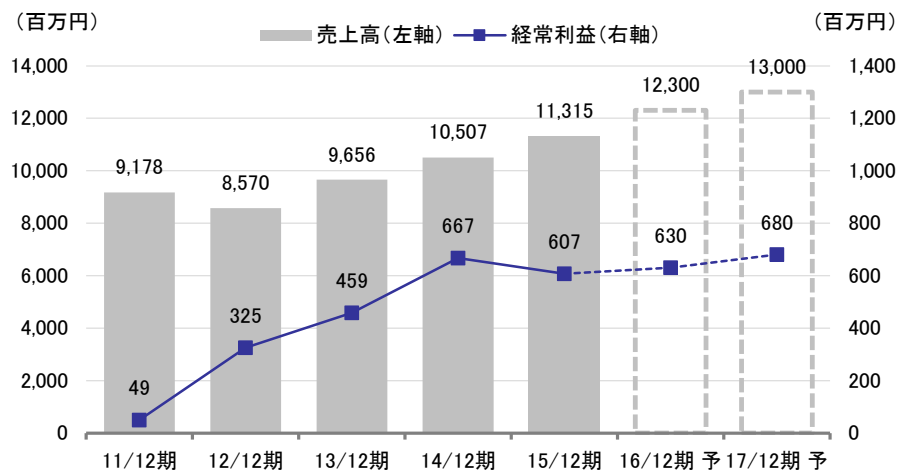
第 2 四半期以降もソフトウェア開発事業の豊富な受注残を背景に、売上高は高水準が続く見通しだ。第 1 四半期は低採算案件が売上に計上されたこともあり、一時的に利益水準が落ち込んだものの、通期では売上高で前期比 8.7% 増の 12,300 百万円、営業利益で同 6.2% 増の 630 百万円と増収増益が見込まれる。

ストック型ビジネスについては、高齢者の在宅見守り支援システム「いまイルモ」の採用例が増えてきているほか、IoT を活用したエネルギー管理システム事業が子会社で動き始めるなど、着々と成果が出始めている。また、Fintech 領域での新サービスも今期中の開始を目指している。主力のソフトウェア開発事業の成長に加えて、これらストック型ビジネスの収益化、さらには海外への事業展開を図ることで、2018 年 12 月期には売上高で 14,000 百万円、経常利益で 750 百万円を目指していく考えだ。

■ Check Point

- ・売上高はソフトウェア開発事業の好調な推移などで、2 四半期連続で過去最高を更新
- ・ストック型ビジネスに注力中
- ・16/12 期は売上高 120 億円、営業利益が 6.30 億円と増収増益の見通し

連結業績推移



■ 事業概要

ソフトウェア開発事業とデジタルサイネージ事業を展開

同社の事業セグメントはソフトウェア開発事業とデジタルサイネージ事業に区分されており、2016 年 12 月期第 1 四半期における売上高構成比ではソフトウェア開発事業が約 98% を占め、主力事業となっている。

ソフトウェア開発事業は同社のほか子会社 9 社で構成され、それぞれ専門分野に特化した事業展開を行っている。単独ベースの業種別売上高構成比 (2015 年 12 月期) で見ると、金融業界向けが 66.4% と高いのが特徴で、なかでもクレジット向けが 29.9% と最も高くなっている。また、単独売上高のうち直接顧客向けの売上比率は金融業界向けを中心に 27.3% を占めている。間接顧客としては富士通 <6702> や日立製作所 <6501>、IBM 系列のシステム開発会社が大半を占めている。

一方、デジタルサイネージ事業は国内でアミューズメント施設向けを中心としたデジタルサイネージや AV・セキュリティシステムの設計・導入・保守事業を行う子会社 1 社で構成されている。

関係会社 (事業内容、出資比率)

| 連結子会社 | 出資比率 (%) | 主要事業 |
|------------------------|----------|---|
| ソフトウェア開発事業 | | |
| エフ・エフ・ソル | 94.8 | 銀行系特化型のソフト開発 |
| イー・アイ・ソル | 100.0 | 組込・制御・計測関連のソフト開発 |
| インフィニットコンサルティング | 100.0 | システム開発の上流工程のコンサルティング |
| teco | 100.0 | Webマーケティング、開発、運用保守、コンサル |
| ノイマン | 100.0 | 自動車教習所向けシステム、eラーニングサービス |
| エクスマーシオン | 100.0 | システム開発現場におけるコンサルティング・教育サービス |
| コアネクスト | 100.0 | 証券バイサイド向け業務システムの開発保守 |
| アスウェア | 100.0 | ICT インフラの企画・構築・保守業務 |
| アセアン・ドライビングスクール・ネットワーク | 67.7 | ベトナムでの自動車運転教習所運営 |
| デジタルサイネージ事業 | | |
| インターディメンションズ | 100.0 | AV・セキュリティシステム等の設計・導入・保守、デジタルサイネージ・映像コンテンツ制作 |

■業績動向

売上高はソフトウェア開発事業の好調な推移などで、2 四半期連続で過去最高を更新

(1) 2016 年 12 月期第 1 四半期決算の概要

4 月 28 日付で発表された 2016 年 12 月期第 1 四半期の連結業績は、売上高が前年同期比 19.1% 増の 3,160 百万円、営業利益が同 34.8% 減の 77 百万円、経常利益が同 52.7% 減の 55 百万円、四半期純損失が 13 百万円（前年同期は 2 百万円の黒字）と増収減益決算となった。

2016 年 12 月期第 1 四半期連結業績

(単位：百万円)

| | 15/12 期 1 Q | | 16/12 期 1 Q | | |
|-------------|-------------|-------|-------------|-------|--------|
| | 実績 | 対売上比 | 実績 | 対売上比 | 前期比 |
| 売上高 | 2,654 | - | 3,160 | - | 19.1% |
| ソフトウェア開発事業 | 2,545 | 95.9% | 3,099 | 98.1% | 21.8% |
| デジタルサイネージ事業 | 108 | 4.1% | 61 | 1.9% | -43.4% |
| 売上原価 | 2,119 | 79.8% | 2,631 | 83.3% | 24.2% |
| 販管費 | 416 | 15.7% | 451 | 14.0% | 8.4% |
| 営業利益 | 118 | 4.5% | 77 | 2.4% | -34.8% |
| 経常利益 | 118 | 4.5% | 55 | 1.8% | -52.7% |
| 四半期純利益 | 2 | 0.1% | -13 | - | - |

売上高は主力のソフトウェア開発事業が好調に推移したことで、2 四半期連続で過去最高を更新した。増収にも関わらず減益となったのは、旺盛な受注に対応していくための外注費や人件費が増加したこと、また、販管費はグループ会社も含めた社内体制強化のための費用が増加したことなどが要因となっている。第 1 四半期に売上計上した開発プロジェクトのなかに、利益率の低い案件（機器販売比率が高い案件）が含まれていたことも利益率の低下要因となっている。ただ、こうした動きは期初に想定していたものであり、会社計画比で見ると売上高は 2 桁、営業利益は 3 桁を上回るなど順調な滑り出しとなっている。

なお、ソフトウェア開発事業の業種別の動向では、金融向けがクレジット向けや証券向けの大型案件が進行中で、前年同期比 2 ケタ増収となった。また、金融以外では流通業向けが増加したが、その他の業種についてはほぼ横ばいであった。需要は旺盛なもの的人的リソースの問題から選別受注を進めていることが要因となっている。

主要子会の動向を見ると、銀行系のシステム開発を行う（株）エフ・エフ・ソルは前期に大型プロジェクトが終了したことで大幅減収となった。また、組込・制御・計測系のシステム開発を行う（株）イー・アイ・ソルやデジタルサイネージ事業を展開する（株）インターディメンションズなども減収となった。このうち、インターディメンションズに関しては太陽光発電システムの販売・設置工事案件が減少したことが減収要因となった。

ストック型ビジネスに注力中

(2)トピックス

2016 年以降、同社が注力中のストック型ビジネスにおいて、新しい取り組みが開始されているので以下に簡単に紹介する。

○高齢者向け在宅見守りサービス「いまイルモ」

2016 年 1 月より山形県の川西町と社及び(株)こころみが共同で、多機能の見守りセンサーと会話型見守りサービスによる「健康寿命の延伸」実証事業を開始している。第 1 次実証期間(2016 年 1 月下旬から 2 月末)では、川西町の独居高齢者宅 100 件に同社の見守りセンサーを設置し、同センサーで得たデータと、こころみの定期的な電話による会話型見守りサービスを組み合わせることで、対象者の安否や健康状態の確認などを行った。次段階(2016 年 3 月中旬～)では、独居高齢者の日頃の行動状況やメンタル面の分析を行い、将来的にはこれらの分析結果を使って、川西町が実施する健診・健康教室・ウォーキングなどのイベントへの参加を促し、「健康寿命の延伸」を目指していくことを目的としている。第一次実証期間を終えた段階での評価に関してはおおむね良好であったが、サービス料金の低価格化が今後の課題となりそうだ。

また、もう 1 つの案件としてトヨタ・モビリティ基金、名古屋大学による共同研究「愛知県豊田氏足助地区におけるモビリティ活用型モデルコミュニティの構築」の一環として実施される「足助病院プロジェクト」に、同社の見守りサービスが活用されることが決定した。同プロジェクトでは一人暮らしの世帯に多機能の見守りセンサーを設置し、必要に応じて日常生活状況、行動状況等の見守りデータを足助病院と共有し、診察時に医師による生活指導を受けることで病気の予防保全に役立つ取り組みを進めていく。

超高齢化社会の到来と同時に、独居老人も増加の一途をたどると予想されるだけに、地方自治体や病院、介護施設などと連携する格好での取り組み事例は、今後も増加していくものと予想され、同社のストック型ビジネスの収益拡大に貢献しよう。

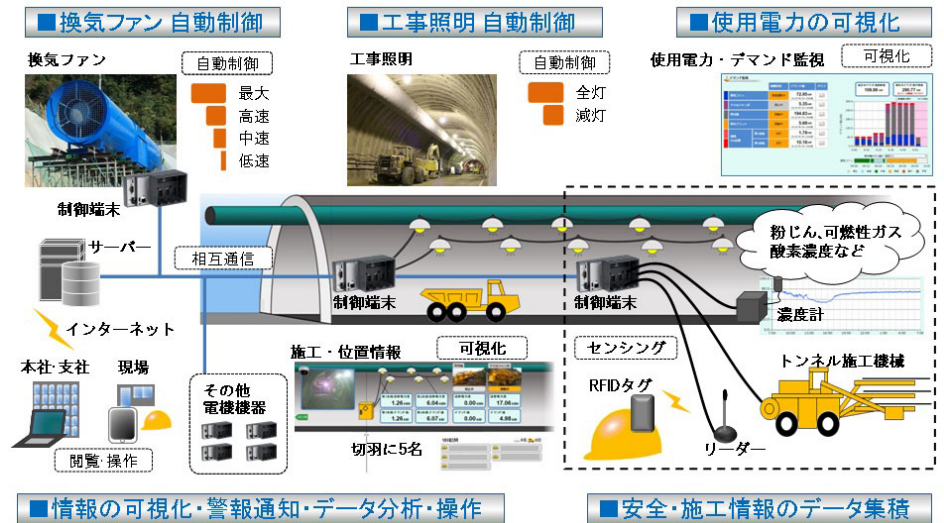
○IoT を用いたエネルギーマネジメントシステムを開発

子会社のイー・アイ・ソルが銭高組<1811>と共同で、IoT を用いた山岳トンネル工事の安全管理と省エネルギー化を連動させるエネルギーマネジメントシステム「TUNNEL EYE」(特許出願中)を開発し、2016 年 4 月より同システムの販売を開始することを発表した。同社の売上高としては初年度で 1 億円を見込んでいる。

同システムは、山岳トンネル工事現場において各種情報を収集するための機器(人や車両を検知するセンサー、作業環境を測定する濃度計、照明機器や換気ファンなどの電気機器稼働状況をモニタリングする電力計)を設置し、インターネット経由でこれらの情報を収集し、トンネル外部から安全を確保するための警報通知や、省エネの自動制御等を行う仕組みとなっている。

既に、「高松自動車道 志度トンネル工事」(施工：銭高組)に試験導入を行い実用性については確認済みで、電力費で従来比約 2 割の削減効果を見込んでいる。ビル内におけるエネルギーマネジメントシステムは既に普及が進みつつあるものの、工事現場では業界初となる。山岳トンネル工事では今後、リニア新幹線の工事も控えていることから潜在需要は大きいとみられる。また、同社では同システムをビルの建設現場にも応用展開していきたい考えで、建設現場での IoT 需要を取り込んでいく戦略だ。売上高としては IoT のシステム利用料を得る格好で、ストック型のビジネスモデルとなる。

「TUNNEL EYE」のシステム構成図



出所：銭高組 HP

○防犯カメラシステム

子会社のインターディメンションズで、仙台市青葉区国分町の「防犯カメラシステム」の設計・設置工事を行い2016年3月より稼働した。防犯カメラは16台で、赤外線LED照明機器を搭載し、昼夜問わず高解像度の鮮明な撮影が可能となっていること、また、町内全域にネットワークを構築したことで通信料のランニングコストが掛からないことが特徴となっている。宮城県内の商店街に防犯カメラを設置する取組は本件が初めてであり、今後の展開が期待されている。なお、同事業についても導入時の機器販売に加えて、システム利用料を得るストック型のビジネスモデルとなっている。

また、防犯カメラを使ったセキュリティシステムとして、顔認証システムを搭載したシステムの販売も開始している。同社の主力顧客であるパチンコホールなどで需要があると見ている。課題は価格を低く抑えているため顔認証システムの精度がまだ低く、人物特定が困難である点。現在は将来のセキュリティ需要を狙いつつ、サイネージ製品として提供を行っている。需要はあるだけに、今後の精度向上に向けた取り組みが期待される。

■業績見通し

16/12 期は売上高 120 億円、営業利益が 6.30 億円と増収増益の見通し

2016年12月期の連結業績は、売上高が前期比8.7%増の12,300百万円、営業利益が同6.2%増の630百万円、経常利益が同3.8%増の630百万円、当期純利益が同21.7%増の365百万円となる見通しだ。第1四半期こそ減益となったものの、ソフトウェア開発事業における豊富な受注残を背景に、第2四半期以降も売上高は高水準が続く見通しであり、低採算案件も一巡したことから、利益面でも回復が見込まれる。

2016 年 6 月 8 日 (水)

※ クラウドを使ったファイル共有、
帳票出力サービス。現在、契
約社数は大企業を中心に 120
社と年々増加傾向にある。

2016 年 12 月期連結業績見通し

(単位：百万円)

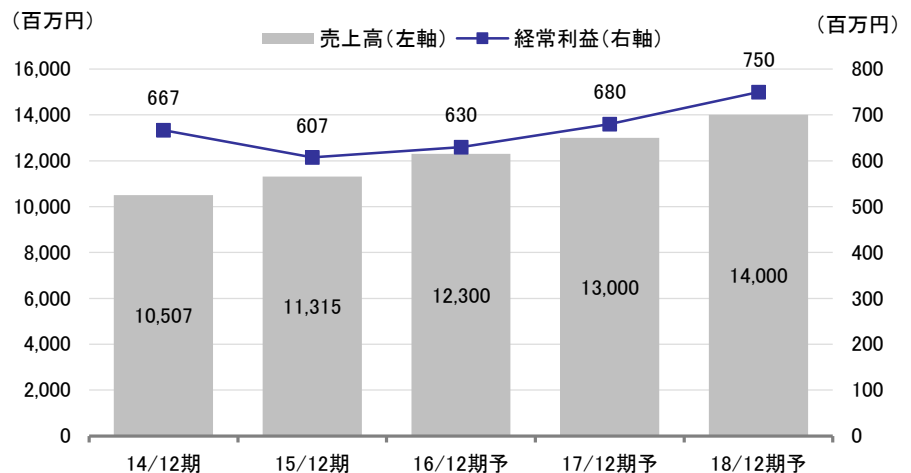
| | 15/12 期 | | 16/12 期 | | |
|-------------|---------|-------|---------|-------|-------|
| | 実績 | 対売上比 | 会社計画 | 対売上比 | 前期比 |
| 売上高 | 11,315 | - | 12,300 | - | 8.7% |
| ソフトウェア開発事業 | 10,831 | 95.7% | 11,816 | 96.1% | 9.1% |
| デジタルサイネージ事業 | 483 | 4.3% | 483 | 3.9% | 0.0% |
| 売上原価 | 9,049 | 80.0% | 9,800 | 79.7% | 8.3% |
| 販管費 | 1,672 | 14.8% | 1,870 | 15.2% | 11.8% |
| 営業利益 | 593 | 5.2% | 630 | 5.1% | 6.2% |
| 経常利益 | 607 | 5.4% | 630 | 5.1% | 3.8% |
| 当期純利益 | 300 | 2.7% | 365 | 3.0% | 21.7% |

課題となっている外注先企業の開拓については、1 年前に立ち上げたパートナー推進室によって掘り起しが進み、対象企業数としては前年の 2 倍近くまで増加したと見られる。これら外注先とは情報共有ネットワークを構築し、外注先の稼働状況を確認しながら、受注案件の委託を最適な外注先に行う体制ができつつあると言う。国内におけるシステム開発需要は金融業界向けを中心に、2020 年頃までは拡大傾向が続くと見られており、同社においても外注先とのネットワークが強化されたことで、更なる成長が見込めよう。

また、ストック型ビジネスでは今期中に Fintech 分野において新たなサービスの投入を予定しているほか、法人向けクラウドサービス「CSO (Cloud Shared Office)」※の ASEAN での展開も計画している。現地日系企業向けに順調に契約が積み上がれば、次のステップとして米国への進出も視野に入れている。

主力のソフトウェア開発事業の成長に加えて、これらストック型ビジネスの収益化、さらには海外への事業展開を図ることで、2018 年 12 月期には売上高で 14,000 百万円、経常利益で 750 百万円を目指していく考えだ。

中期業績計画



■ 株主還元策

配当性向を考慮し、業績に応じた配当を心がけつつ、できるだけ安定的な配当を継続

同社は配当政策について、「配当性向を考慮し、業績に応じた配当を心掛けつつ、できるだけ安定的な配当を継続すること」を基本方針としており、2016年12月期の1株当たり配当金は前期並みの5円を予定している。また、株主優待制度を導入しており、6月末及び12月末時点の株主に国内産コシヒカリを贈呈している（200株以上を保有する株主が対象）。なお、同社は2015年12月にJASDAQから東証第2部に市場変更を行ったが、今後は人材採用の強化を図る意味合いも含め、第1部への上場を目指していく考えだ。

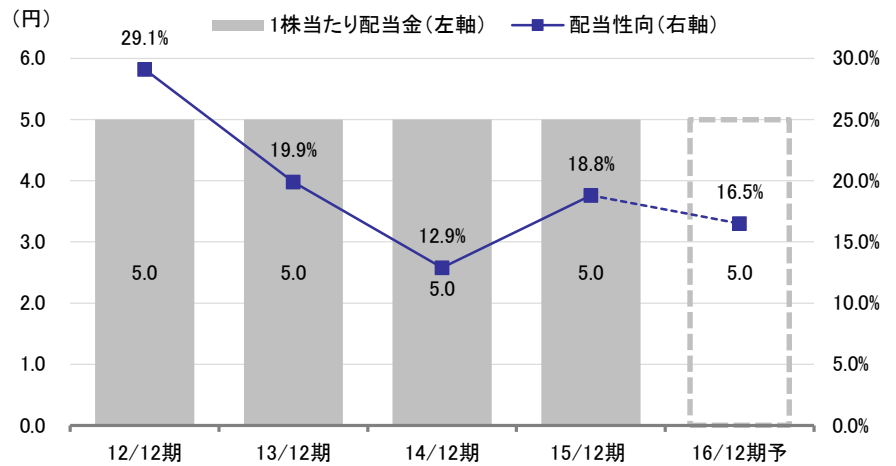
ソルクシーズ

4284 東証 2 部

<http://www.solxyz.co.jp/investment/>

2016年6月8日（水）

1株当たり配当金と配当性向



ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ